

「文化の力で関西・日本を元気に」

日本を代表する世界遺産や 1400 年の歴史に裏打ちされた伝統文化・芸能・祭礼から現代芸術に至るまで、国内外の多くの人々を魅了する文化資源が数多く存在する関西（京都）に文化庁が全面的に移転することを、共々に喜び官民挙げて歓迎する。

関西では、平成15年から関西元気文化圏構想の実現に取り組んできたところであり、文化庁の全面的移転を機に、関西が持つ優れた文化資源や地域資源を活かし、文化行政の裾野を広げ、文化庁の機能をより一層強化することで、日本の元気を関西から発信していきたい。

そのために、文化庁、関西広域連合、経済界、が一体となって、関係団体や住民と連携しながら、オール関西で、文化庁と連携して次のような取組を展開する。

■観光と文化 ～ 文化・文化財はインバウンドの中核コンテンツ

ハード・ソフト両面での文化財の保護と活用、伝統文化の振興、新たな価値の創造を図り、文化と観光が相互に高めあう関係であることを強く意識した取組を実施する。

■産業と文化 ～ 文化によるインパクトある新たなものづくり

映像・アニメなどのコンテンツや、無形文化遺産に登録された日本の食文化など、近年国際的に注目を集める新たな文化を活かすとともに、これまでの伝統産業やものづくり文化の取組からさらに広げ、文化による産業振興の取組を深化させる。

■暮らしと文化 ～ 日本の暮らしの文化の継承・発展

衣食住をはじめとする日本の暮らしの文化とその背景にある地域コミュニティや自然と共生する心を大切に、創造しつつその魅力を発信する。

■まちづくりと文化 ～ 文化芸術は地方創生の起爆剤

まちづくり・地方創生において、文化の視点を取り入れ、伝統(古典)文化から現代アートまでさらなる文化の融合を進め、新たなまちの価値創造につなぐ取組へと発展させる。

これらに関西全体で全力を挙げて取り組むとともに、各地域の取組とも連携することにより広く全国に展開することで、文化の力で未来を切り開き、「文化芸術立国」を実現させる。

平成28年7月21日

文化庁	長官	宮田亮平
関西広域連合	連合長	井戸敏三
京都府知事		山田啓二
京都市長		門川大作
関西経済連合会	会長	森詳介